

令和2年度 自己評価・学校関係者評価報告書

岐阜県立揖斐高等学校

学校番号

19

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 豊かでたくましい心と自ら学び、自ら考える力を育成する。 (2) 知・徳・体の調和のとれた人格を養う。 (3) 地域社会の向上に貢献できる人間を育てる。	
2 評価する領域・分野	◇教務部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・オンライン授業を行い、生徒の理解を高めようとしているという項目では、肯定的な回答が、保護者は92%、生徒は81%と高評価であった ・「揖斐Basic」や「総合的な探求な時間」を有意義な時間と感じている肯定的な回答は、昨年度は同じ87%であり、高評価であった。 ・学校からの連絡文書は届いているとの回答は、否定的な回答が23%で昨年より5%もマイナスであった。 ・わかる授業の授業改善、専門家設置校としての専門的知識・技術の習得につとめているという項目で、例年より肯定的な回答がマイナスとなった。保護者は、より学校に期待している結果となった。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	1 教科指導 (1) 生徒の実態に応じた指導計画の作成 (2) 基礎基本内容の習得と主体的な学習態度の育成 (3) 創意工夫のある授業の実践 2 今後も継続発展させる職員の体制 (1) 授業規律確立に十分配慮しかつ家庭学習に支えられた授業展開 (2) 諸活動に対する教職員の協力体制の充実 (3) 学力の向上に向けた教職員の組織的対応の推進 (4) 学習習慣の確立への支援 (5) 「総合的な探求(学習)の時間」実施に関する企画・調整 3 コンピュータを活用した校務処理の体系化 (1) 校内ネットワークに関するセキュリティの向上、業務の効率化 4 情報発信 (1) 電子メディアによる情報発信(HP、携帯連絡網<メール配信システム>) (2) 活字メディアによる情報発信(学校案内等の編集) (3) 本校に関する報道記事の収集と保存 5 連携型中高一貫教育の充実 (1) 西濃地区連携型中高一貫教育事業の推進	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・教育課程委員会 ・教科書選定委員会 ・補助教材選定委員会 ・情報公開検討委員会 ・総合的な探究の時間推進委員会 ・学習成果発表会実行委員会 ・情報教育推進委員会	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 年間指導計画の作成依頼、集約 学期末、授業改善への取組の検証及び反省 の記録の依頼集約 (2) 連休課題等を早めに配布することで、学習 習慣の確立への支援を行うことができた。 (3) 「授業改善研修会」の実施 (4) 情報セキュリティ意識の向上 (5) メール配信システムへの登録状況向上 (6) HP更新(揖斐高Topics、各種通信など) 新聞記事の許諾申請・掲示 (7) 町教委、連携中学校、本校と連携行事 (中高一貫教育事業)の調整 (8) ICTを活用した授業への取組	(1) 年間指導計画の作成に関して各教科への確に依頼で きたか。 (2) 適切な配布時期で実施することができたか。 (3) 授業改善にむけて、テーマに合わせた研修が実施で きたか。 (4) チェックシートを定期的の実施し、セキュリティ意 識の変革ができたか。 (5) 登録が適切に行われ、登録者の増加に繋がったか。 (6) 情報発信が滞りなくできているか。 (7) 連携についての課題を解決しながら、行事を進める ことができた。 (8) ICTを活用して授業の改善ができたか。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価

①年間指導計画の作成依頼・集約と学期末授業改善のための反省記録の依頼集約 ②学習習慣の支援を行うために連休課題を早めに配布 ③「授業アンケート」の実施による生徒の状況把握、改善実践状況の交流 ④チェックシートの提出と確認の徹底 ⑤配信メールの登録と帰宅確認訓練の実施 ⑥HPの更新、記事の掲載及び許諾申請の提出などの実施 ⑦連携行事のスムーズな運営 ⑧他分掌との連携と学校行事の遂行 ⑨ICTを活用した授業の改善	①各教科に的確に依頼できたか。 ②適切な配布時期に実施できたか。 ③授業改善に活かせることができたか。 ④セキュリティ意識が向上したか。 ⑤登録者数と回答率が向上したか。 ⑥更新頻度。すみやかな記事の掲示ができたか。 ⑦課題を解決しながら運営できたか。 ⑧学習支援、教科・分掌との連携ができたか。 ⑨ICTを効果的に取り入れるとともに、授業の改善ができたか。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D A (B) C D (A) B C D (A) B C D A B (C) D A (B) C D (A) B C D
11 成果・課題	①〇昨年度の反省を生かし、スムーズに集約できるようになり、よかった。 ②〇長期休業課題を保護者懇談時に配布し、早期に知らせることができた。 ③〇生徒が普段思っていることを聞く良い機会であり、授業改善の足がかりになった。 ▲臨時休業のため、1回目のアンケート実施が遅れ、さらに2回目のアンケート実施が12月になってしまい、あわただしかった。 ④〇グループウェアのアンケートを使い、効率的に解答できた。 ▲合格点に達しなかった先生方に個別対応を続け、全員合格を目指したい。 ⑤〇今年度は、e-learningやオンライン授業などの連絡が多くなったため、ほぼすべての生徒の登録ができた。 〇1年生の保護者には、合格者説明会で説明を行い順調に登録できた。 〇帰宅確認を保健安全部と連携して3回実施した。 〇生徒指導部からの「心のアンケート」も毎月実施し、ほぼ全員から回答を得ることができた。 ⑥〇HPや新聞記事を更新し、取材依頼及び許諾もスムーズに実施できた。 ▲保護者へのPRの方法を考えていきたい。 ▲更新や、新しいレイアウトやページを作ることについて研究が必要である。 ⑦〇学習面談指導のみ、全職員の協力で実施することができた。 ▲新型コロナウイルス感染症のため、例年のように行事ができなかった。 ▲谷汲中学校、坂内中学校との授業交流の研究が必要である。 ⑧〇臨時休業中のオンライン授業では、全職員が協力、連携して、配布物の郵送オンライン授業の配信、DVD化などを行い、無事に実施できた。 ⑨〇昨年導入されたICT機器を活用し、オンライン授業を積極的に行った。 〇タブレット研修会やメタモジ研修会を、全職員で研修できた。 ▲ICTの活用が一部の先生に偏っている。	総 合 評 価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案 ・年間指導計画作成について記入の方法等についての徹底 ・課題の依頼方法と、課題を出す時期についての検討 ・授業アンケートの取り組み方について、クラス数や人数について検討が必要。 ・情報セキュリティに対する意識向上に向けて日常的に呼びかけ、指標などの作成 ・メールの登録をPTA総会や保護者懇談会など定期的に促し、帰宅確認に対する指導の徹底 ・HPの効果的な活用について検討 ・中高一貫教育について、年度初めに共通理解を図るとともに、授業交流について詳細を計画 ・連携中学校との課題について解決方法を見つけるとともに、行事への継続的な参加の依頼 ・行事の際の教務内の役割分担などを再考し、他の分掌や学年と連携のあり方を検討 ・校内研修を実施し、ICTの活用拡大に努めて授業改善につなげる ・生徒一人1台タブレットの運用、授業や家庭での活用方法の研究		

Ⅱ 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月15日

【意見・要望・評価等】

- ・「揖斐Basic」「総合的な探究の時間」を有意義に感じている点で本校の独自性が出せていると思う。
- ・中高一貫は今後の必然の流れなので、その点を共有しているのがよい。
- ・コロナ禍で、従来の教育体制とは異なり、対応が大変だったと思う。その中で、オンライン授業の導入を早期に取り組まれたことが、「オンライン授業を行い、生徒の理解を高めようとしている」の項目で高評価につながったと思う。
- ・ＩＣＴ環境整備事業のおかげでオンライン授業の充実が図られたことは大変良かった。機器のさらなる活用や研修に全職員で臨んでもらいたい。
- ・新型コロナウイルス感染症対策としてオンライン授業を取り入れたことは、今後ＩＣＴ教育を進めるうえで、よい方向付けができたと思う。ＩＣＴの活用が一部の教師に偏っているという課題があるので、この分野での職員研修を一層進める必要性がある。
- ・Wi-Fi環境の整っていない家庭がなかったか気にかかる。
- ・オンライン授業では、相手の表情やペンの動きなどから理解度をうかがうことが難しいのではないかなと思う。授業内容の理解を深めるためには、オンライン授業を後から視聴するなど、復習に活用できるようになるとよい。またオンライン授業でも生徒の議論を活発に行えるよう工夫してほしい。
- ・揖斐川町内の谷汲中学校・坂内中学校と授業交流を積極的に行ってほしい。
- ・ＳＤＧｓの取組も積極的に行ってほしい。

令和2年度 自己評価・学校関係者評価報告書

岐阜県立揖斐高等学校

学校番号

19

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 豊かでたくましい心と自ら学び、自ら考える力を育成する。 (2) 知・徳・体の調和のとれた人格を養う。 (3) 地域社会の向上に貢献できる人間を育てる。		
2 評価する領域・分野	◇生徒指導部		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	「迷惑調査」と「教育相談週間」については、年間3回実施している。今年度は「いじめ」の訴えはなかったが、人間関係のトラブルを事態が悪化する前に解決することができた。情報モラルに関するトラブルもなく、規範意識が以前よりは植え付けられてきた印象である。自己理解や他者理解の力を育てる取組は今後も検討していく必要がある。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	1 基本的な生活習慣確立の徹底 (1) 欠席・遅刻の防止対策 2 生命尊重の態度と人権意識の伸長の徹底 (1) 交通安全指導 (2) 生命や自他の生活を大切にできる生徒の育成 3 規範意識の醸成 (1) ルールの遵守とマナーの向上にむけた指導 (2) 問題行動の未然防止に努める (3) SNSの活用改善に向けての指導		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・生徒指導委員会 ・いじめ防止対策委員会 ・人権教育委員会		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 校門あいさつ指導 (2) 通学路立哨指導、交通安全教室 (3) 情報モラル教室、全校集会での啓発、養老鉄道乗車指導	(1) 遅刻者数の前年度比 (2) 交通事故発生件数の前年度比 (3) 問題行動発生件数の前年度比		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
・校門あいさつ指導はできなかったが、検温の際コミュニケーションを取ることができた。MSリーダーズによる交通指導などは協力も得られ実施している。 ・通学路立哨指導は通学路の見直しを含め年度・月当初に実施しており、鉄道乗車指導は定期的に実施している。 ・交通講話、情報モラル講話、人権講話などの啓発活動も、全校生徒対象に実施している。	① 遅刻者減少 (897→647) 欠席者数増加 (1519→1570) 早退者数減少 (348→317) ② 交通事故減少 (13→6) (自動車同乗事故1件含む) ③ 問題行動件数減少 (学校反省) 33→5 12月25日現在	A (B) C D A (B) C D A (B) C D	
11 成果・課題	○心に不安を抱えている生徒が多くおり、不登校傾向の生徒が欠席を繰り返している。しかし、中には遅刻しても登校しようとする生徒や、別室から出て授業を受けに行ける生徒もいた。また遅刻者と早退者は減少しているが、欠席者が増加しているため、学校生活を最後まで全うさせる指導の工夫も必要である。 ○交通事故が減少した。ただワイヤレスのヘッドホンを装着した状態での運転など、指導を強化していく必要がある。また交差点での一旦停止違反が多く、交通マナー指導の強化が必要である。 ▲欠席者が増加している背景にはコロナへの恐れなどもあると考えられるが、無理に登校させることも難しいので、指導が難しい。		総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案	・新入生に対する適応指導を充実させる。 ・いじめ未然防止についての研修の機会をもつ。 ・遅刻者への罰則の導入 ・情報モラルに関する問題点を丁寧に説明する機会を多く設ける。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月15日

【意見・要望・評価等】

- ・アンケートの回収率の高さは教員と生徒の信頼関係を物語っていると思う。欠席者を除くすべての項目で改善がみられ、「規範意識が以前より植え付けられている」との印象に繋がっていると思う。生徒指導という難問も上手にコントロールされている。
- ・心の不安を抱えている生徒が多いことや、欠席を繰り返す不登校傾向の生徒がいることが気になる。生徒の不安の傾聴やスクールカウンセラーへの相談など、改善につながった事例を知りたい。
- ・遅刻者を減らす工夫をしてほしい。
- ・コロナ禍だからこそその悩みや自分自身と向き合う時間も多くあったと思う。一人一人の心に寄り添うご指導をありがとうございました。
- ・問題行動の件数減少は嬉しい。
- ・コロナ感染者に対する差別やいじめの防止のための人権教育を一層強化してほしい。
- ・コロナ感染症への不安や進路選択・決定への不安などを抱える生徒が少なくないと思われるが、アンケートの実施、相談体制の充実などにより、救われた生徒も多いと思う。生徒一人一人が実情に応じた目配り、心配りを今後も継続してほしい。
- ・近鉄路線バスの運行がなくなったことについて、生徒たちの様子や感想を知りたい。

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立揖斐高等学校

学校番号

19

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 豊かでたくましい心と自ら学び、自ら考える力を育成する。 (2) 知・徳・体の調和のとれた人格を養う。 (3) 地域社会の向上に貢献できる人間を育てる。	
2 評価する領域・分野	◇進路指導部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・生徒からは3つの項目とも85%以上の「肯定的」な評価を得ているが「不明」という評価が増加している。 ・保護者からは3つの項目とも80%近い「肯定的」な評価を得ているが特に「将来の進路決定、自己実現・・・」では72%から86%に増加している。また、「不明」という意見が1年生では20%と多い。 ・保護者からは「生徒の進路希望に・・・」では「否定的」な評価が1%から12%に大きく増加している。コロナ禍のため、1学期の行事が中止・変更になった影響と思われる。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 基礎学力の定着生徒の進路希望 (2) 適性或キャリアアンカーを踏まえた進路実現 (3) コミュニケーション能力の育成	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・各学年学年会 ・総合的な学習推進委員会 ・企画委員会 ・職員会議 ・校内選考会	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 「揖斐Basic」(1年)実施 (2) 「デュアル実習」(3年生)実施 (3) 「進路適性検査」(2年生)実施 (4) 「キャリアアンカー自己診断」(全学年)実施 (5) 「一般常識対策学習」(3年生)実施 (6) 「進路ガイダンス」(全学年)実施 (7) 「1分間スピーチ」(2年)実施 (8) 「進路希望調査」(全学年)の実施 (9) 「進路相談会」(3年生)の実施 (10) キャリアプランナーの有効活用	(1) 授業に対する取り組み状況、基礎学力の課題調査、認定テストによる評価 (2) 実習における取り組み状況、参加者の意識変化や感想 (3) 結果を生徒が理解し、保護者懇談等で活用できたか (4) 自己のキャリアアンカーを確認し進路決定につながれたか (5) 授業における取り組み状況、課題調査による評価 (6) 参加時の生徒の様子や評価、生徒の感想 (7) 原稿作成時の取り組み状況、発表会における自己及び他者による評価 (8) 調査結果を保護者懇談会等で役立てることができたか (9) 進路に対して、方向性を決めることができたかどうか (10) 生徒の進路相談や進路決定に役立ったか	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
①「揖斐Basic」を実施し、基礎学力の育成と定着を図り、認定テストにより学力を把握した。	①生徒の取り組みの状況及び確認テストの結果	☒ A B C D
②「デュアル実習」を週1回年間20回継続的に実施し、1月の学習成果発表会で発表を行った。	②本校職員及び受け入れ企業、参加生徒による評価	A ☒ B C D
③総合学習の時間に実施し、結果を保護者懇談時に説明・配布し、進路について考えさせた。	③保護者懇談会や家庭で進路について相談できたか	A ☒ B C D
④「キャリアアンカー自己診断用紙」をLHR時に実施した。	④自己のキャリアアンカーが確認できたか	☒ A B C D
⑤総合学習の時間に一般教養教材を利用した演習を実施した。	⑤演習時の取り組み状況及び一般教養テストの結果による評価	A ☒ B C D
⑥「進路ガイダンス」を実施し、講演及び学校見学、学校の説明会等を実施した。	⑥参加時の取り組み状況及び、生徒アンケートによる評価	A ☒ B C D
⑦総合学習の時間に「1分間スピーチ」の原稿作	⑦原稿作成時及び作成した原稿	☒ A B C D

成及び発表会を実施した。 ⑧進路希望調査を年2回実施し、担任の進路指導に役立てた。 ⑨11月初旬から就職未決定者に対し、進路指導担当者による進路相談を実施した。 ⑩キャリアプランナーにより、全2・3年生に個人懇談を行い、進路希望の確認や意識付けを行った。	の評価、発表会での評価 ⑧保護者懇談会等で調査結果を有効に活用できたかどうか ⑨生徒が進路希望を明確にし、応募先企業を決定することができたか ⑩生徒の進路選択・進路決定に役立ったかどうか	A ☒ B C D ☒ A B C D ☒ A B C D
11 成果・課題 ○「揖斐Basic」により、中学時の学習内容等の復習・確認ができた。これにより高校での学習のための基礎・基本の定着を図ることができた。 ○「1分間スピーチ」の原稿作成及び発表会を通して、生徒の表現力やコミュニケーション能力を高められた。さらに、発表会時には、他の生徒の発表を聞き、評価することで、聞く姿勢を高めることができた。 ○3年生保護者対象の進路説明会はコロナ禍のため、オンライン形式に変更したが、参加者はやや増加した。 ▲コロナ禍により、進路関係行事が中止・延期・変更された。特に、1年生では4月のオリエンテーションが中止され、10月の進路ガイダンスが変更となり、進路関係の情報提供などがうまくできなかった。 ▲「オール岐阜・企業フェス」が中止となり、企業の方から直接話を聞く機会が減った。来年度以降、どのような形で実施するか検討する必要がある。 ▲生徒が希望する企業や就きたい職種を持てても、なかなか能力・適性とが乖離し、内定が得られない状況が増えている。生徒の能力・適性の適切な把握と実際の応募先決定の方法を検討する必要がある。 ▲本年度よりキャリアプランナーに、企業訪問などを実施してもらう予定であったが、コロナ禍のため実施できなかった。実施できない場合は、別の方法を検討し、求人数の確保を図る必要がある。		総 合 評 価 A ☒ B C D
12 来年度に向けての改善方策案 (1) コロナ禍を前提としたキャリア教育・進路指導を計画する必要がある。そのため、できる限りオンラインで行える講演などを検討する。 (2) 進路適性検査やキャリアアンカー自己診断の有効な活用を図ることで、自らの適性を知り進路意識を高めさせる。 (3) 「オール岐阜・企業フェス」が開催されれば、2年生全クラスに参加させることで多くの企業の担当者から話を聞き、進路意識を高めさせたい。 (4) コロナ禍が治まるまで、インターンシップ実施の可否を実習先と検討する必要がある。ただし、デュアル実習は単位習得とも関係するので、対策をしっかりとらせ、計画通り実施する。 (5) 生徒への進路情報の提供のためオンラインでの「オープンキャンパス」や「学校説明会」、「企業説明会」への積極的な参加を促すことや企業情報誌の配布などを通して、生徒の進路意識を高め進学先の決定につながるよう務める。 (6) 3年生において、採用試験における適性検査対策として、外部の適性検査を新たに実施し、客観的に生徒の適性を把握し、生徒の意識を高め、採用試験内定につなげたい。 (7) キャリアプランナーには本年度に実施したことに加え、企業訪問などを通して求人を確保する。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月15日

【意見・要望・評価等】

- ・コロナ禍の中での進路指導は大変難しかったと思いますが、1分間スピーチで表現力やコミュニケーション能力の向上を図るなど、「自己実現」の評価が向上し、生徒に自信をつけさせたことは大きいと思う。
- ・企業との連携、「ジモト大学」などを活用して、地元志向の就職活動につなげてほしい。
- ・コロナ禍で職を失う方も多くいる中で、就職内定100%は素晴らしい。たとえ希望する職種でなくても、働けることに感謝すべきであり、教職員の努力の結果だと思う。
- ・「揖斐Basic」「1分間スピーチ」等、取り組むことがはっきりしていることの積み重ねで、生徒は確

かな自信と力を付けていると思う。

- 大学入試共通テストを受験した生徒がいるというのはとても興味深い。
- コロナ禍の中、希望する職種に就くことの難しさがあったが、これからの人生においても紆余曲折しながら目標に向かって突き進んでいただきたい。
- 進路関係行事の中止や延期が、生徒の進路選択や自己実現に大きく影響したと思われる。このような状況が続くことを想定した進路指導の在り方も検討してほしい。
- 生徒が自らの能力、適性を知り、それを生かせる職業選択ができるよう、より多くの進路情報を提供してほしい。
- 就職後の離職ができるだけ抑えられるよう、生徒と企業 mismatches を防ぐことは大切だと思う。

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立揖斐高等学校

学校番号

19

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 豊かでたくましい心と自ら学び、自ら考える力を育成する。 (2) 知・徳・体の調和のとれた人格を養う。 (3) 地域社会の向上に貢献できる人間を育てる。	
2 評価する領域・分野	◇特別活動部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・学校行事、部活動、生徒会活動に関する問に対する生徒の肯定的な回答は、例年と同じ程度の数値（80%台）であり、かつ否定的な回答は全て10%以下となった。 ・部活動に関する問の保護者の肯定的な回答もも昨年度同様に70%台であった。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	1 生徒が自ら考え行動する力を育てる。 2 委員会活動の充実をはかる。 3 部活動への積極的な参加を促す。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・生徒の話し合いの場の設定と研修会の実施。 ・各委員会顧問との連携。 ・各部活顧問との連携と生徒へのはたらきかけ。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 定例の執行部会の開催・リーダー研修会の実施 (2) 委員会活動の活性化と新しい企画・取り組みの検討 (3) 部活動参加の働きかけ。部の活動状況の広報	(1) 生徒の自主的な話し合い・活動がなされたか。 (2) 各委員が活動に積極的に参加するようになったか。 (3) 入部者が部活動を継続できているか。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・毎週1回の生徒会執行部会、長期休業中のリーダー研修会の実施 ・委員会活動への参加を促し、新しい取り組みの検討 ・キャリアパスポートを活用し、HRTが活動状況を把握しやすくする。	① 活発な意見交換、意欲的な活動状況がみられたか。 ② 生徒の委員会活動への参加状況。 ③ HRTと部顧問との連携がなされたか。	A ☒ B C D A ☒ B C D A ☒ B C D
11 成果・課題	○コロナ禍のため体育祭は中止としたが、文化祭は規模を縮小したものの、オンライン配信の活用や3密を回避してのイベント開催など工夫を凝らして開催することができた。 ○新入生歓迎行事は、休校措置のため準備時間が十分とれず、またコロナ対策で制約が多いにもかかわらず滞りなく行うことができた。 ▲体育館での全校集会が実施できず、また例年執行部員が担当していた校外でのボランティア活動が全て中止となり、生徒の活躍の場が少なくなったことが残念である。 ▲体験入部期間を延長したが、1年生の部活動加入者は約半数（62人）で昨年度とほぼ同じであった。	
12 来年度に向けての改善方策案	・オンライン配信形式の全校集会であっても生徒会（執行部）からの情報発信を積極的に行うとともに、その他の方法での広報活動を活発に行う。 ・コロナ対策をとりつつ文化祭、体育祭とも、生徒が積極的、自主的に活動できるよう働きかける。 ・文化祭クラス企画に多様性をもたせ、内容がより質的に向上するように働きかける。 ・新入生の部活動加入率を高めるため新入生の体験入部を奨励し、部活動加入を促す。	

総合評価

A ☒ B C D

Ⅱ 学校関係者評価

実施年月日：令和３年２月１５日

【意見・要望・評価等】

- ・オンライン配信においても全校集会での生徒側からの情報発信は賛成である。
- ・部活動未加入者には、「どんな部活動があれば入りたいか」などを調査し、柔軟に対応を検討してはどうか。
- ・「できないこと」ではなく「今できること」を創意工夫して、生徒自ら企画運営できるとよいと思う。
- ・「～できない」のではなく、この先も「～だからできた」と胸を張り、この先も達成感が味わえる取組ができるよう支援をお願いしたい。
- ・コロナの感染状況にもよるが、学校生活や人生の節目の行事は創意工夫して行うことが大事である。
- ・特別活動は、生徒の主体性や社会性を育むうえで重要な活動であり、コロナによって中止、縮小を余儀なくされたことは非常に残念である。できる範囲で工夫し、実施してほしい。
- ・コロナ禍において今年度の重点目標である「生徒が自ら考え鼓動する力」を育てる教育の機会が減少したのではないかと心配している。次年度も同じ状況が続いた場合の策を講じてほしい。

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立揖斐高等学校

学校番号 19

I 自己評価

1 学 校 教 育 目 標		(1) 豊かでたくましい心と自ら学び、自ら考える力を育成する。 (2) 知・徳・体の調和のとれた人格を養う。 (3) 地域社会の向上に貢献できる人間を育てる。	
2 評価する領域・分野		◇保健安全部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等		・睡眠や食事などの基本的生活習慣が確立されておらず、学校生活に影響している生徒がいると推測される。 ・防災教育をオンラインで実施することで、より理解を深めることができた。 ・感染症について自らの健康を考える生徒が増えた。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標		① 保健指導：心身の健康状態を知り、健康増進や体力向上を実践する能力を育てる。 ② 学校安全：安全に対する意識を高揚させ、留意する態度を育て、自らの判断で避難する能力を身につける。 ③ 環境整備：環境美化に自主的に協力し、地球規模での環境保全活動に取り組む態度を育てる。 ④ 危機管理：災害や非常事態に備え、行動マニュアルや用品備蓄の対応を行う。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制		① 保健指導：健康管理に関する指導、学校保健委員会 ② 学校安全指導：安全点検、各種訓練・研修の実施、防災指導 ③ 環境整備：清掃活動の指導 ④ 危機管理：対応に必要な物品の整備、安全確保の指導	
6 目標の達成に必要な具体的な取組		7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 各種健康診断及び事後指導・保健指導 (2) 安全点検・命を守る訓練 (3) 美化委員会清掃活動 (4) 備蓄品の確認		(1) 医療機関受診率の向上、保健室来室者の変化 (2) 不具合の対応、訓練状況の向上 (3) 清掃取り組み状況の向上 (4) 備蓄内容の選定	
8 取組状況・実践内容等		9 評価視点	10 評 価
① 各種健康診断の実施及び事後指導、保健指導 ② 命を守る訓練等による、非常変災時に備えた行動体験、オンラインによる理解を深め意識の啓発 ③ 美化委員がクラスを中心となり行う、各種作業の実施 ④ 備蓄品の確認、変更		① 健康診断後の再検査など、事後指導の結果が向上したと考える。 ② 訓練や講習会に取り組み、意識や行動が向上したと考える。 ③ 美化委員を中心に意識をもって美化活動が行われたと考える。 ④ 災害時を想定し、選定を行ったと考える。	① A B C D ② A B C D ③ A B C D ④ A B C D
11 成果・課題	○予告なしの訓練や、様々な場面を想定(授業中・緊急地震速報)した訓練を実施し、非常変災時の啓発を行った。(命を守る訓練 6月9月10月1月 計4回実施) ▲治療受診率：歯科 昨年7.8%→今年9.4% 視力 昨年19.3%→今年35.2%(12月現在) 昨年と比べると受診率は向上したが、目標の50%には届いていない。積極的に受診してもらうためにも、対面指導が必要だと考える。 ▲美化委員会による美化推進の方法をさらに講じる必要がある。		総 合 評 価 A B C D
12 来年度に向けての改善方策案 ・視力検査及び歯科検診実施、診断後の治療受診率50%以上を目標とする。対象生徒、保護者への通知を行い、早急に受診するよう声掛けを行う必要がある。担任と連携し、未受診者に対して、再度通知を出す、また状態の悪い生徒については対面での保健指導を強化する。			

総合評価

A B C D

- ・自己判断で安全な行動がとれる能力を育成することを目標にした「命を守る訓練」を実施し、取組結果をフィードバックすることで生徒自身の防災意識を高める。
- ・2年生対象のハザードマップ作りは自身が生活する地域を知ること、身近な問題として考えられるよう工夫し、継続実施する。
- ・美化委員会による掃除状況の点検や、学校敷地内清掃活動を継続し、全校生徒の美化意識を育成する。
- ・新型コロナウイルス感染症対策を継続実施する。オンラインを用いて消毒やマスクの必要性を指導した結果、生徒自身が正しい知識を習得し、自ら考え行動するようになった。自らの判断、行動で自身や家族の健康を守るよう、健康意識を育成する。

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月15日

【意見・要望・評価等】

- ・「基本的生活習慣」をいかに確立させるかは、頭を悩ませるところだが、「食」の課題にもっと焦点をあてるべきだと思う。
- ・環境問題も危機管理も非常に重要な課題で、いずれも生徒の意識向上がみられるのは教職員の努力の賜物だと思う。
- ・コロナ感染症について、映像を利用した啓発活動をしたことで、感染予防対策に効果があり、意識が向上したことは素晴らしいと思う。これらの継続は必須である。
- ・コロナ禍で、生徒に対する規範指導は適切だと思う。
- ・健康意識を育成することは大切であり、その中で命の尊さや他人に対する尊厳・尊重を育む教育の実施を期待している。
- ・歯の治療受診率が低いのが気にかかる。健診結果が保護者に届いていないのではないかな。
- ・自分の体を守ること、健康の大切さを痛感した今、さらなる指導の充実をお願いしたい。
- ・新型コロナウイルス感染症について、正しく判断することで、マスク着用や手指消毒の習慣化が図られている。今後も保健安全について、自ら正しく判断し、行動できる生徒の育成に努めてほしい。
- ・自分の命だけでなく「他人の命」を守れる指導はとても大切だと感じる。
- ・命を守る訓練について、予告なしで取り組むことは良いと思う。昨今若年層の正常性バイアスが問題視されており、「自分の命」を守る習慣づけも大切だと感じる。引き続き、全校での取り組みをお願いしたい。

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立揖斐高等学校 学校番号 19

I 自己評価

1 学 校 教 育 目 標	(1) 豊かでたくましい心と自ら学び、自ら考える力を育成する。 (2) 知・徳・体の調和のとれた人格を養う。 (3) 地域社会の向上に貢献できる人間を育てる。		
2 評価する領域・分野	◇渉外		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・家庭との連携として、 文書わかりやすく伝えている。77.5% 確実に届けられている。74.5% ・PTA等の徴収金について詳細に公表している。83%・ ・一斉メールサービスは有効に活用されている。85%		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒やPTA活動の情報をよりわかりやすく的確に伝えるために、PTAだよりの内容を改善する。 ◇保護者への迅速な情報提供として、ホームページやメール配信システム等を有効活用する。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・PTA役員会 ・同窓会理事会、同窓会総会		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 生徒やPTA活動の情報をよりわかりやすく的確に伝えるために、PTAだよりの取組を早くして、内容等を十分に検討 (2) メール配信システムの活用	(1) PTA活動の協力度、役員会議の意見など各会議への参加協力など (2) 学校行事の連絡・報告		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評 価	
・生徒やPTA活動の情報をよりわかりやすく的確に伝えるために、メール配信システム等を活用し適宜配信することができた。 ・同窓会理事会は開催を見送ったが、歴代の学年代表の名簿を作成することができた。	① PTA支援活動等に多くの保護者の協力が得られた。 ② 同窓会関係	A ㊀ C D A ㊀ C D	
11 成果・課題	○PTA役員の協力を得て各行事が円滑に進んでいる。 ○同窓会関係は連絡を取り合っている。 ▲各行事への参加者が固定化されてきている。		総 合 評 価 A ㊀ C D
12 来年度に向けての改善方策案 ○実りのある活動ができるようPTA役員の組織や分担内容を見直す。 さらなる生徒減に伴い役員の過度な負担とならないようPTA支援活動を精選する。 ○今後もメール配信システム等を活用しリアルタイムに活動報告を配信する。			

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月15日

【意見・要望・評価等】	
・PTAの進路見学会は、来年度も同じ状況なら、計画しないほうがよい。 ・この状況下でもPTA諸活動などに多くの支援があることは、教職員の努力があってこそだと思う。 ・参加者が固定化するという問題はあり得るが、アイデアを出し合い少しでも改善されることを望む。 また役員の負担減も重要だと思う。 ・地域に根ざした校風を活かし、地域住民も参加しやすいような仕組があるとよい。 ・担当教職員やPTA役員の協力により、行事や活動に多くの協力が得られている点は素晴らしい。 ・コロナ禍でPTA活動が制限される中、保護者への正確な情報の提供が重要なので、今後もメール配信システムなどを十分活用してほしい。	

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立揖斐高等学校

学校番号 19

I 自己評価

1 学 校 教 育 目 標	(1) 豊かでたくましい心と自ら学び、自ら考える力を育成する。 (2) 知・徳・体の調和のとれた人格を養う。 (3) 地域社会の向上に貢献できる人間を育てる。		
2 評価する領域・分野	◇ 専門部（生活環境科）		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・ 授業アンケートより ・ 93%強（R1年度は80%前後）の生徒が授業内容に、ほぼ満足しているという結果だった。 ・ 授業後、更に学びたいと思う生徒が88.8%と他に比べて少ない。（R1年度は87.4%） またた、自主的に勉強している生徒が84.2と%少ない。（R1年度は85.6%） →考えさせる場面を多くとる。家庭生活に結び付ける指導を工夫する必要がある。 ・ I C Tの授業については、昨年度以上に研究を進めた結果、授業がよくわかるようになったという意見が多くなった。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 学習指導方法の改善に努め、わかる授業を展開し、学ぶ習慣を身に付けさせる。 (2) 将来に向けて「生きる力」「考える力」の育成を図る。 (3) 地域交流・連携を促進する。 (4) コンクールや検定への挑戦で技術力向を図る。 (5) 学習成果発表会を成功させる。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・ 家庭科会議での意思統一と情報交換 ・ 各分掌・各学年との連携		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 目標の明確化とわかる授業の工夫 (2) 授業後の課題、長期休暇・連休課題の提出 (3) 幼稚園、中学校、特別支援学校、高齢者施設への実習やボランティア活動の充実 (4) 検定・コンクールへの挑戦 (5) 学習成果発表会に向けて継続的な取組、中間発表等による評価	(1) 目標達成についての生徒による自己評価 (2) 提出物の評価 (3) 生徒の振り返り、地域からの意見により判断 (4) 3年間で家庭科技術検定被服製作1級・食物調理1級・保育2級合格、コンクール入選 (5) 事後アンケートの集計結果		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評 価	
・ 「わかる授業の工夫」を各自で研修した。 ・ 未提出物をなくすための粘り強い指導をした。 ・ 科目「課題研究」「子どもの発達と保育」等で各コースの特徴を活かした実習に取り組んだ。 ・ ボランティア活動は今年度全て中止した。(コロナ) ・ 検定やコンクールの指導を放課後や早朝に実施した。コンクールの中止が多かった。(コロナ) ・ 外部講師による講習会を実施した。介護職員初任者研修を継続した。調理に関する講習会は1月から中止した。(コロナ)	①生徒の自己評価、授業アンケート ②提出物の状況 ③実習後の感想・反省の内容、施設からの聞き取り結果 ④検定の合格率、コンクール入賞者 ⑤生徒の感想、テストによる評価	A ☒ B C D A ☒ B C D A ☒ B C D ☒ A B C D ☒ A B C D	
11 成果・課題	○オンライン授業の充実を図った。パワポ、撮影した動画の投影（編物、着つけ、手縫い、シャツカラーの部分縫い、ジャケットの仮縫い、包丁の持ち方等）、実演（編物、着つけ、和裁のくけ、シャツカラーの部分縫い、ジャケットの仮縫い、調理等）、エクセルを使用した演習（食物調理検定の献立表の書き方）、布マスクの作成。 ▲提出物の期限内提出率が悪い。→未提出者の継続的な指導をする。 ○行事を実施後ホームページに掲載し、PRを充実させた。		総 合 評 価 A ☒ B C D

○揖斐川町やＪＡいび川との協定により、コロナ禍ではあるが、できることを実践する中で、生徒の達成感を持たせることができた。 ○地域との連携を意識して、商品開発を行った。コロナ禍で、販売や試食会ができなかった。（ＪＡ、アスナ、みわ屋、弓削銘水堂） ○地域交流センター「はなもも」にて、保護者のみの参観ではあったが、学習成果発表会を開催でき、生徒が活躍できる場をもつことができた。 ▲全てのボランティア活動、幼稚園での実習が中止になったが、地域に根ざした揖斐高校を更にＰＲしたい。 ○検定に意欲的に取り組み、多くの生徒を合格させることができた。合格率：和服１級７１％（Ｒ１年度は５０％）、洋服１級７１％（Ｒ１年度は８０％）、洋服２級１００％（Ｒ１年度は６２％）、被服３級７９％（Ｒ１年度は７２％）、被服４級１００％（Ｒ１年度は９３％）、食物１級９７％（Ｒ１年度は７０％）、食物２級６９％（Ｒ１年度は１００％）、食物３級８７％（Ｒ１年度は６５％）、食物４級１００％（Ｒ１年度は９８％）、編物２級４３％（Ｒ１年度は８０％）、編物３級４２％（Ｒ１年度は６３％）。保育２級５３％（Ｒ１年度は６２％）、保育３級１００％（Ｒ１年度は７２％）、保育４級１００％（Ｒ１年度は９３％） ○コンクールに、延べ７名が入賞を果たした。	
12 来年度に向けての改善方策案 ・新学習指導要領を意識し、計画実践し、授業改善に努める。 ・今年度から開設した保育コースの授業計画等の研究を継続する。 ・教員の技術習得をめざし、科内での研修会を実施し研鑽を積む。 ・学習成果発表会への取組をさらに充実したものにする。 ・地域に根ざした揖斐高校の活動を継続実施する。	

Ⅱ 学校関係者評価

実施年月日：令和３年２月１５日

【意見・要望・評価等】 ・「デュアル実習」や連携協定に基づく「ＪＡ班」の取組は、教職員の指導の下、コロナ禍においても活動できたことに対して感謝している。 ・地域交流や連携は、本校の教育活動の重要な柱であるので、一層進めてほしい。 ・生徒が検定合格を目標に意欲的に学んだり、合格率を目に見える形で示したりすることは、学校の活性化につながるので継続してほしい。 ・企業との連携による商品開発は消費者の声が伝わりやすく、意義のあるものだと思う。 ・地域連携による活力ある教育の実践が素晴らしい。 ・各種検定やコンクールに積極的に取り組み、自信や確かな力を付けていてすごいと思う。 ・今年度は例年通りのことができず、モチベーションを維持するのが困難だったと思う。そのような状況の中で、学習成果発表会を開催し、生徒には充実した経験になったのではないかなと思う。 ・地域と連携した商品開発を行い、今後の販売に向けてまでいけるように「今できること」を創意工夫して、学生さんが企画運営できるとよいと思う。 ・９３％の生徒たちが「授業内容にもほぼ満足している」という結果は素晴らしいと思う。 ・地域連携による商品開発も「地域に根ざした揖斐高校」のスタイル確立に大いに役立っており、今後益々充実化を図ることと期待している。 ・実技のオンライン授業では、画面上で確認することが難しく生徒が苦勞していたので、オンライン授業で見やすい工夫をしてほしい。 ・今年度の学習成果発表会は在校生が録画した映像を視聴することになり残念だった。会場には入れなくても、ライブで見られるとよかった。

令和2年度 自己評価・学校関係者評価報告書

岐阜県立揖斐高等学校

学校番号

19

I 自己評価

1 学 校 教 育 目 標		(1) 豊かでたくましい心と自ら学び、自ら考える力を育成する。 (2) 知・徳・体の調和のとれた人格を養う。 (3) 地域社会の向上に貢献できる人間を育てる。	
2 評価する領域・分野		◇第1学年	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等		・定期的に学年集会や身だしなみ指導を行うことで、生徒自身、ルールを守らなければいけないという意識付けができた。 ・エアコンやＩＣＴ機器等、学習しやすい環境が整い、生徒の学習意欲の向上につながることを期待したい。 ・進路ガイダンスや外部講師による講演会など、授業以外の様々な学習の機会を設け、生徒の進路実現の幅を広げた。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標		・基本的な生活習慣を身に付けさせる。 ・仲間と協調しながら、充実した学校生活を送れるよう図る。 ・学習習慣を確立するとともに、基礎学力を獲得させる。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制		・生徒指導部と連携し、問題が生じた際に迅速に対応した。 ・学年団で情報を共有し、個々への対応を統一した。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組		7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 学び直しの科目としての揖斐Basicを計画的に取り組み、基礎学力を獲得させる。 (2) 基本的な生活習慣の徹底、授業規律を守るようにする。		(1) 長期休業中の課題提出状況、定期考査・課題テスト等での得点結果。 (2) 教科担任からの授業評価、学年集会や講演会での生徒観察。	
8 取組状況・実践内容等		9 評価視点	10 評 価
・授業など学習への取り組みと、揖斐Basicによる基礎学力の定着 ・定期的な学年集会、長期休業後の身だしなみ指導 ・挨拶や時間厳守、言葉遣いなど社会性の育成と情報モラルに関する指導		①生徒の状況観察と情報収集 ②学校行事などの取り組み状況の検証 ③定期考査などの成績状況、教科担任による評価	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	○学年団の教員が情報を共有し、どの生徒に対しても指導を統一したことで、問題行動への抑止力になった。 ○定期的に学年集会を行い、身だしなみ指導を実施したことで、2年目となる制服をしっかりと着こなしている。 ▲年度当初から、時間を守ることに根気強く指導してきたが、朝の遅刻等はなかなか減らない。		総 合 評 価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案 ・登校時間や授業の開始時間を守る等、根気強く指導していく必要がある。 ・挨拶や服装以外にも、授業規律や提出物など高校生としてふさわしい行動・言動ができるよう指導していく。			

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月15日

【意見・要望・評価等】

- 今年度の新入生の指導は、例外だらけで本当に難しかったと思うが、そのような中で学校生活を前向きにとらえ、おおむね積極的に全活動に取り組んでいることは、評価できる結果だと思う。
- 教職員間の情報共有と指導方針の統一が功を奏している。
- 「進路ガイダンス」での先輩の話は、身近に感じられ、興味深いものだったと思う。
- 「時間厳守＝社会人としての基礎」を高校生のうちから自覚できるような工夫が必要だと感じた。
- 教職員間の情報共有、具体的な指導の徹底等のチームワークにより本校の1年生は健全な学校生活を送れたのではないかな。
- 社会的規範を早く身に付けることができてよかった。

- ・学年担当職員の意思統一や学年集会での定期的な指導による、成果が見られたのはよかった。
- ・1年生から「進路」を考える取組はとても良いと思う。進学や就職についての目標を持つことは生徒自身の「行動を変える」とも重要な要素である。
- ・重点目標の「学習習慣の確立」や「基礎学力の獲得」は進路を決めるための自己投資だと指導してほしい。

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立揖斐高等学校

学校番号 19

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 豊かでたくましい心と自ら学び、自ら考える力を育成する。 (2) 知・徳・体の調和のとれた人格を養う。 (3) 地域社会の向上に貢献できる人間を育てる。	
2 評価する領域・分野	◇第2学年	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・ホームページ等で学校の様子を把握するなど、よく活用されている。 ・将来の進路決定、自己実現のための指導を評価している。 ・新型コロナウイルス感染症予防の取り組みについて、肯定的な評価が多い。 ・学校からの連絡文書等、紙媒体のものが保護者の手元に届いていない	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	1. 集団生活の中で、思いやりの心を養い、社会適応力やコミュニケーション能力を身に付けさせる。 2. 学習意欲、態度の向上を図り、基礎学力を身に付けさせる。 3. 進路について研究し、自分の適性を考え具体的な目標を考える。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・学年会などで生徒情報を共有し、正副担任全員で指導に当たる。 ・各分掌と連携を取り、迅速な対応を心掛ける。 ・家庭と学校が	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 学校行事に主体的に参加させ、集団の中での役割を自覚させる。 (2) 学力の定着を図るために、家庭学習を習慣化させ、課題提出を厳守する意識を持たせる。 (3) LHRや学年集会等で、社会で必要とされる能力を身に付けさせる。 (4) 進路ガイダンス等を効果的に活用し、自分の進路について考える機会を増やす。	(1) 生徒会や部活動の参加状況 (2) 未提出物調査、生徒の状況観察、教科担任との情報交換 (3) 出席状況、身だしなみ検査結果、学年団での情報交換 (4) 進路希望調査、個別懇談、進路ガイダンス参加状況	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・生徒の資質に応じた能力の育成	①学校行事への取り組み状況の検証	A (B) C D
・マナー指導による社会性の育成	②身だしなみ検査、生徒観察	(A) B C D
・LHRでの進路研究、進路ガイダンス実施	③生徒観察、情報収集	(A) B C D
11 成果・課題	総合評価	
○進路学習では、新型コロナウイルス感染症予防のため校内での進路ガイダンスのみだったが、積極的に参加し自分の進路実現に向けて前向きに取り組めた。 ○服装や授業規律など、生徒が自主的に守ろうとする姿が見られた。 ○リーダーとして責任ある仕事に意欲的に取り組む生徒が見られた。 ▲家庭学習や未提出課題等、基礎学力の定着を継続して指導していきたい。	(A) B C D	
12 来年度に向けての改善方策案		
・生徒会や部活動など、個々の能力を発揮できる機会をより多く設ける。 ・進路決定・自己実現に向け、身だしなみや学習意欲など早期の段階で意識付けさせる。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月15日

【意見・要望・評価等】

- ・進路決定及び自己実現に向け、早期から社会適応力やコミュニケーションスキルの向上が必須だと考えられているが、自己分析も必要だと思う。
- ・自分は何がしたいのか、何が得意なのか、何を大切にするのか考え、EQ（心の知能指数）の向上を目指してほしい。
- ・進路学習において他人から学ぶ事も大切だが、自分での「気づき」も大切だと思う。個々の適性や長所に気づけるような場面として、「個々の能力を発揮できる機会をより多く設ける」ことに期待している。
- ・特別活動などを通して、リーダーが育ちつつあるので、さらに集団の中で社会性やコミュニケーション

能力を高め、学校を代表する最上級生を目指してほしい。

- ・服装や授業規律などを生徒が自主的に守ろうとする姿が見られるのは、良いリーダーがいて、学ぶ集団として育っている証拠であり、教職員の努力のおかげである。
- ・学校のメインプレイヤーとなるはずの今年度、コロナの影響で、その機会を思い存分得られず、様々な点で苦労があったと思うが、生徒の「自主的な姿勢」「意欲的な取組」を引き出したことは素晴らしいと思う。学年団の努力が伺える。
- ・思い出作りの工夫を生徒と一体となって進めてほしい。
- ・高山への日帰り修学旅行の際、上着の許可がでるのが遅かったため、次回からは早めに行き先に応じた指示をしてほしい。

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立揖斐高等学校

学校番号 19

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 豊かでたくましい心と自ら学び、自ら考える力を育成する。 (2) 知・徳・体の調和のとれた人格を養う。 (3) 地域社会の向上に貢献できる人間を育てる。	
2 評価する領域・分野	◇第3学年	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・学校からの文書がきちんと保護者に渡っているか心配である。 ・生徒は学校に対してかなり肯定的な評価をしている。 ・オンライン授業の実施で、生徒の学習理解を支援している。 ・保護者は教職員の姿勢に肯定的評価をしている。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ キャリア教育の推進と進路実現の達成 ◇ 社会で生きる力の育成 ◇ 最高学年としての自覚・態度の育成 ◇ 連携・協力体制に基づく指導	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・正担任・副担任そして教科担任・部活動顧問との連携 ・校務分掌との連携	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 授業と家庭学習を軸にして学力をつけ、基本的な生活態度の育成する指導 (2) 総合学習・LHR・放課後等を活用して進路目標を達成する指導 (3) 学校の核として、部活動や学校行事への主体的な参加を促す指導	(1) 成績概況、課題の提出状況、出欠状況、退学・転学者数、迷惑調査、身だしなみ検査、ファイル指導等の観察 (2) 面接指導報告書、教員間の情報交換 (3) 活動日数、出席率、表彰、学校外行事への積極的な参加	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・学年団、教科担任との情報交換と連携 ・進路や出欠席等に関する保護者との連携 ・面接・作文の指導、懇談、情報提供	①成績概況、教科担任による評価 ②出欠状況、身だしなみ、進路達成状況 ③面接指導報告書、小論文指導	Ⓐ B C D - A Ⓑ C D Ⓐ B C D
11 成果・課題	○ 今までとは異なる学校生活をしているが、生徒は柔軟に対応しており、落ち着いて過ごすことができた。多くの学校行事は中止されたが、実施できた行事には積極的に参加し、最高学年としても役割を十分に果たせた。 ○ 進路実現に向け、面接指導や作文指導を積極的に受ける生徒が多くいた。また、自身の健康を守る努力を怠ることなく、よく努力をした。 ▲ 家庭への連絡、配布物が、保護者に届いていない場合があり、ホームページやメール配信をさらに充実させ、学校の動きが保護者に伝わるよう工夫する必要がある。	
12 来年度に向けての改善方策案		
・今年度は、進路の日程が大きく変更され、保護者からの問い合わせや相談等、電話連絡が大変であったが、新たに導入されたオンラインの上手な活用を考えていきたい。 ・情報不足による保護者の不安感を払拭するため、保護者対象の進路相談日を設定したり、保護者向け通信の発行頻度を増やしていきたい。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月15日

【意見・要望・評価等】

- ・高校生活の集大成となる最終学年が、この状況下であっても、自律的かつ積極的そして柔軟に学校生活に取り組めたということが、これまでの指導のすばらしさを物語っていると思う。感動的な卒業式にしてほしい。
- ・先行きが不安な学校生活の中でも、面接や作文指導も積極的に行い、その結果ほとんどの生徒の進路が決まった。教職員の苦労のおかげである。
- ・自己表現力、プレゼンテーション能力を培うことは大切だと思う。

- ・今年の３年生は学校生活から進路選択、進路実現に至るまで光が見えず不安な毎日だったと思うが、健康を管理し、面接や作文の指導などを積極的に受ける生徒が多く安心した。後輩へとつなぎたい姿である。
- ・自分の意見を自分の言葉や自分の文章で表現することを習慣化することで、面接や作文の対応ができるのではないかと思う。さまざまな場面において、自分の考えを表現する機会を作してほしい。